

写真でみる IMADR30 年 1998～2018

1988 年 1 月 25 日の IMADR 設立から 2018 年までの 30 年間を写真で追いました。紙焼きが主流であった時代の写真は、倉庫に眠る色あせたアルバムから選んでスキャナーで読み取りました。新世紀になりデジタル化が飛躍的に進んだおかげで、2000 年以降はハードディスクに保管されているデータに頼ることができました。カバーできていない年がありますが、写真をみて IMADR の歴史の一面にふれてみてください。



1988 年 1 月 25 日、世界の水平運動を旨として反差別国際運動（IMADR）が設立された。初代理事長には上杉佐一郎部落解放同盟中央執行委員長（当時）が就任。2 年後の 1990 年には反差別国際運動日本委員会（IMADR-JC）が設立された。

設立総会にはドイツ・スィンティ・ロマ中央委員会のロマン・ロゼ議長（左から 2 人目）も参加。マイクの前に立つのは村越末男 IMADR 事務局長（当時）。



設立総会のあとに、各界から来賓を招いた設立記念集会が開催された。写真はあいさつに立つ土井たか子社会党委員長（当時）。社会民主連合（当時）の江田五月さんもあいさつの演台に立った。



設立年の 12 月には第 2 回反差別国際会議が、福岡、大阪、名古屋、長野、東京で開催された。

大阪では 12 月 9 日に世界人権宣言 40 周年記念集会和兼ねたシンポジウムが開催された。

1992 年 11 月第 3 回 IMADR 総会、フィリピン、ケソン市で開催される。



第 3 回総会後に開かれた先住民族と開発に関する国際シンポジウム。北海道アイヌ協会の野村義一理事長も参加された。



1993 年 6 月、オーストリアのウィーンで開催された世界人権会議は、冷戦後初の人権に関する国連会議であり、人権の普遍性が唱えられた。採択された行動計画に基づき、国連人権高等弁務官が設けられた。IMADR もこの会議報告として「現代世界と人権 Vol.14」を発行した。

1993 年 6 月、世界人権会議の本会議の風景



1994 年 4 月から 6 月にかけて、朝鮮学校に通う女子学生の制服を刃物で裂く「チマ・チョゴリ事件」が多発した。戦前より在日コリアンへのヘイト意識は根強く、ことあるごとに発現している。

1994 年 10 月の来日中に朝鮮学校を訪問したミリアム・シュライバー理事長





1995 年 11 月、アメリカ・ニュージャージーで開催された第 8 回 IMADR 理事会。シュライバーさんを引き継いで、ニマルカ・フェルナンド第 3 代理事長が誕生。

1995 年 12 月、日本政府は人種差別撤廃条約に加入した。部落解放同盟をはじめとした民主団体による長年の働きかけに、村山内閣が応えた。しかし人種差別の根拠である世系に部落は入らないという当初からの姿勢を政府は今も維持している。



2001 年 8 月 28 日から 9 月 8 日まで、南アフリカのダーバンで反人種主義・差別撤廃世界会議が開かれた。部落とダリットコミュニティから多数が参加し、「職業と世系に基づく差別」が宣言文に盛り込まれるよう働きかけた。

ダーバン会議場。2 億 6 千万の人びとの人権が踏みにじられていると訴える数々のプラカード。



「ダリットの権利は人権だ！」と書かれたヘアバンドを巻くダリットの参加者。ダーバン会議で。



IMADR はダーバン会議で「職業と世系に基づく差別」、「複合差別」、「人身売買」に関するワークショップを開催した。部落女性、ダリット女性などマイノリティ女性が置かれてきた複合的な差別の状況について、IMADR が本格的に取り組むきっかけとなった。

「職業と世系に基づく差別」のワークショップ。インド、ネパールのダリットの代表と部落解放同盟の代表がプレゼンをした。

2001 年 9 月、ダーバン会議の結果文書に「職業と世系に基づく差別」は盛り込まれなかった。しかし翌 2002 年、国連人種差別撤廃委員会（CERD）は「世系に基づく差別」に関する一般的勧告 29 を採択して、カースト差別や部落差別は世系差別であり、条約でカバーされることを再確認した。

複合差別のワークショップ。ダリット女性は権利を奪われ暴力にさらされていると訴えるダリット女性たち。



2002 年 11 月、インド農村教育開発協会（SRED）のブルナド・ファティマ・ナティサンさんが和歌山や奈良をはじめ各地の部落解放同盟を訪問。これがきっかけとなり、SRED と IMADR によるインド現地でのデイクアセンター建設にむけた運動が始まり、多くの支援をえて 10 カ所以上のダリットの村で開設されるようになった。

和歌山市の子ども会の招きで、子どもたちとのワークショップを楽しむファティマさん。



2003 年 12 月、人権擁護法案廃案（2003 年 10 月）をうけ、アジア太平洋国内人権機関フォーラム（APF）の代表を招き、パリ原則にのっとった国内人権機関の設立をめざした政党や政府への働きかけおよびセミナーを開催した。

2003 年 12 月 8 日、専門家ワークショップで報告する APF 代表のキエレンフィッツ・パトリックさん。



2004 年 3 月 6 日 IMADR 第 2 代理事長のミリアム・シュライバーさんが、ブリュッセルで逝去された。IMADR の結成や国連 NGO 協議資格取得への重要な貢献を果たしたことに對し、1993 年には第 5 回松本治一郎賞を受賞された。

2004 年 11 月、第 14 回 IMADR 理事会、メキシコのクエルナバカで開催される。前列左から 2 番目はメキシコの理事、スターベンハーゲンさん（追悼記事 15 ページ参照）。





2004 年 11 月、第 14 回 IMADR 理事会に続いて開催したシンポジウム。モレロス州人権アカデミーなどと共催。世界各地の被差別マイノリティの現状について議論を行った。



IMADR 設立時よりドイツ・スィンティ・ロマ中央委員会は加盟団体としてかかわってきた。ヨーロッパ各国において周縁に追いやられているロマは、ことあるごとにスケープゴートにされ、迫害や退去の標的とされてきた。

2005 年 6 月、IMADR とドイツ・スィンティ・ロマ中央委員会はスロヴェキアにおけるロマの実態調査団を派遣した。学校訪問をしたときの教室での記念写真。



2005 年 7 月、日本国内における人種差別の調査のため、人種差別に関する国連特別報告者ドゥドゥ・ディエンさんが日本を公式訪問した。IMADR は市民社会セクターの調整役として、部落、在日コリアン、移住労働者、アイヌ民族、沖縄のコミュニティ訪問などをアレンジした。翌 2006 年 7 月にはこれら団体が集まり人種差別撤廃 NGO ネットワーク（ERD ネット）が結成され、IMADR はその事務局をになうことになった。

2005 年 7 月、京都にて在日コリアンの高齢者と面談をするディエン特別報告者。



1993 年 3 月、IMADR は念願の国連経済社会理事会のもとでの NGO 協議資格を取得した。それにともない、ジュネーブにおける活動はますます重要になった。1996 年、田中敦子さん（当時の名前）が IMADR ジュネーブ事務所にて代表として赴任をした。それ以降、敦子さんの献身的な働きにより、IMADR はジュネーブを拠点とした足場を固め、部落・ダリットをはじめ世界のマイノリティ・先住民族コミュニティとの連携を広げ強化していった。

2006 年 3 月、在りし日の田中敦子さん、IMADR ジュネーブ事務所にて。左はインターンのジョセフ・ハンキンスさん。